

# 栄養やまぐち

(社) 山口県栄養士会

〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1番1号  
山口県総合保健会館4F  
TEL: 083-932-8015 FAX: 083-902-7156  
ホームページアドレス: <http://www.yama-ei.com>

## 平成23年度 通常総会報告



去る5月21日(土)平成23年度通常総会が開催されました。

開会にあたり、山口県知事 二井 関成様代理  
山口県健康福祉部次長 寺田徹郎様と山口県医師会  
会長代理 小倉淑夫様にご出席いただき、二井  
知事からご祝辞を賜りました。

また、本年度は永年模範会員として17名の方  
が表彰を受けられました。

尚、平成23年度の総会議事は以下のとおりで  
す。

●開催場所 山口市吉敷下東3丁目1番1号  
山口県総合保健会館

●開催日 平成23年5月21日(土)

●総会員数 829人

●出席会員数 479人

(内訳) 本人出席 100人  
書面表決者 127人  
委任状出席者 252人

●議長選出 満場一致をもって

議長 宇部支部 岸田 千恵

副議長 柳井支部 黒瀬 有紀

が選出された

●書記・議事録署名人選出 満場一致をもって

書記 北浦支部 鹿兒島久美子

議事録署名人 山口支部 中村 良子

山口支部 中野 早苗

が選出された

●定足数の件

議長挨拶の後、第22条、第24条の規定に基づ  
き定足数を満たしたので、総会成立宣言が行わ

れた。その後、議案の審議に入った。

●第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告  
監査報告

●第2号議案 平成23年度事業計画及び予算

●第3号議案 山口県栄養士会定款(案)

●第4号議案 公益法人化に伴う会費改正

第1号～4号議案までは質疑応答なく承認され  
た。その後、公益法人化移行に伴い、支部及び  
協議会の繰越金についての質問があり、移行前  
までに使い切るか本会へ戻す形となる。また、  
資産となる物品管理についての質問があり、3  
万円以上の物品は一度本会が管理する形を取り、  
その後、支部・協議会へ設置することと回答さ  
れた。

以上の質疑応答がなされた後、採決に入り、  
賛成多数で承認された。

上記の案件は全て承認され、平成23年度通  
常総会は、無事閉会した。



# 平成23年度 永年模範会員表彰

おめでとうございます。平成23年度永年模範会員として、17名の方々が表彰されました。

中津井 貴 子	川 脇 登志子	濱 本 好 子	中 村 妙 子
五反田 真 子	宮 崎 紀 子	藤 岡 すみ子	吉 本 朝 子
田 中 邦 子	中 尾 久美子	松 井 泰 恵	
林 晃 子	瀬戸口 貴容子	岩 武 瑞 恵	
岩 本 佳 枝	内 藤 久 子	市 原 美千子	

## 喜びの声

### 「感謝」

萩市民病院 岩武 瑞恵

この度は、永年模範会員として表彰していただき、ありがとうございました。

「光陰矢の如し」－過ぎ去ってみれば、20年はあっという間です。

今、改めてこの20年間、関わって下さった全ての方々に対し「感謝」の気持ちで一杯です。栄養士という資格を取らせてくれた両親、仕事を続けるために協力してくれた家族、そして同僚。特に学校給食・福祉施設給食・病院給食と3箇所の現場を異動し、同じ栄養士とはいえ、全く内容や法律が違う職場でも、手探りながら何とか職務を果たすことができたのは、栄養士会の先輩・仲間の多くの支えがあったからこそと深く感謝しています。

栄養士は一人職場であることが多く、私はどこでも一人でした。異動するごとに新しい知識や情報を求めて、栄養士会で開催される研修会に参加しました。井出浦先生や小野先生の講義についていくために必死に勉強もしました。また、会の役員も経験させていただき、そこでも他の職域の友人を得ることができ、困ったときには、厚かまし

くも連絡させていただき、頼りになる皆様から懇切丁寧な助言等をしていただきました。

病院へ異動した時は、日赤病院へ1ヶ月間の実習に行かせていただきました。心快く引き受けて下さったのも栄養士会の先輩でした。

多方面に多くの仲間を得ました。それは、栄養士の枠を超えて今、私の大きな財産になっています。現在、会員は減少傾向だと聞いていますが、若い人たちに「多くの仲間・頼れる先輩」を作るのにこんなに素晴らしい会はないということを伝えたいです。これからも繋がりを大切にし、少しは頼りになる先輩になれるよう鋭意努力を重ねるとともに、会にもしっかり参加していきたいと考えております。



## 喜びの声

### 「子ども達と一緒に・・・」



防府市立富海保育所 川脇 登志子

栄養士の職に就いて早いもので20年が経ちました。最初は病院で働いていましたが、縁あって保育所の栄養士として働くことになりました。保育所での仕事は現場業務と栄養管理業務ですが、ほとんどの時間は現場業務に追われる毎日を送っているのが現状です。

毎朝、向かいの教室にいる子ども達と会話を交わし、お昼には空き教室を利用してつくられたランチルームで一緒に給食を食べ、手作りおやつはあっという間になくなり「先生、おいしかったよ。また作ってね。」と子ども達の声が給食室まで届いてきます。こんなに間近に喫食者と接し、「食」について話ができるのはとてもありがたいことです。

保育所指針の改定により、栄養士としての専門知識を生かしての食育活動にも参加することが増え、保育士さんと連携を図りながら食育をすすめています。時に子ども達から予測もしない質問も飛んでくることもあり、日々勉強させてもらっている感じもあります。

家に帰っても3児を抱え多忙な毎日ですが、これまで仕事を続けてこれたのも良き上司・先輩・同僚に恵まれ、そしていつも元気な子ども達の笑顔のおかげだと感謝しています。これからも栄養士として「食」の大切さを子ども達に伝えていきたいと思っています。

## 報告

## 平成23年度 第一回栄養士研修会

### 講演「いま栄養士に求められていること」

#### ～食コーチングの視点から～

食コーチングプログラムス主宰  
影山 なお子 先生

平成23年5月21日山口県総合保健会館において山口県栄養士会通常総会がおこなわれ、午後より、平成23年度第一回栄養士会研修会が開催されました。「いま、栄養士に求められていること」～食コーチングの視点から～という題のもと食コーチングプログラムス主宰、影山なお子先生をお迎えし、私たち栄養士・管理栄養士が地域社会に貢献するためのコミュニケーション力を身につけるにはどうしたらよいかということ学びました。

まず、栄養士の社会進出を阻んできたものということで5つのお話をされました。栄養士の免許を持っているというだけで、活かしていないのではないか、頼まれた仕事も自分の仕事ではないと決め付けていないかなど、自ら「地味な職業」と位置付け、自分の専門性の中に引きこもり守備範囲を狭めていないかとの問いかけをされました。

続いて、栄養士が社会進出するためのコミュニケーション力として、非言語コミュニケーション力の強化＝「健康」をカタチにすることを学びました。人は見た目が9割と言われるほど、表情や髪型、服装や姿勢などでどんな人か判断をされてしまいます。身だしなみを整えて、対人により印象を持ってもらえること、栄養士、管理栄養士が健康のモデルとなること、示すことが大切です。

また、言語表現力の強化として自ら挨拶をすること、名刺を持ち歩くこと、自己紹介ができるようにしておくこと、文章表現力の強化などを学びました。

さらに「食コーチング」（食行動を通して、健康に対する意識を高め、健康行動を発展させ、ライフスタイルや人生をより活性化させるためのサポートシステム）、影山先生が考えられたコミュニケーション技法の特徴を学びました。

今回、栄養士・管理栄養士である前に一人の社会人としてどうあるべきかという接遇の内容も含んだ研修だったように思います。

今日、栄養士、管理栄養士の社会的役割は増すばかりです。仕事、人生を輝かせるためのコミュ



にこやかに講演される影山なお子先生

ニケーション力を高めること、県民のよりよい支援者になるよう努力していくことが必要だと感じました。

健康支援者として、健康的な立ち居振る舞い、話し方（言葉）ができるのが栄養士、管理栄養士です。

仕事・人生を輝かせるためのコミュニケーション力を会員の皆様もご確認ください。

- ①家族や同僚、近所の人に対して快いあいさつを習慣にする
- ②工作中や職場、街を歩いているとき、明るい表情を保つように心がける
- ③公私にわたって、問いかけコミュニケーションを実践する
- ④私生活でも食材の買い物、調理、供食を楽しむ習慣をつける
- ⑤食事をおいしそうに食べる
- ⑥余暇活動（趣味、ボランティア、社会活動、サークル、信仰）をする
- ⑦身だしなみ姿勢に気をつける
- ⑧「栄養士」である職種を自ら卑下しない
- ⑨言い古された栄養・健康情報を吟味することなくいつまでも使わない
- ⑩情報を伝えるときは努めて出典を示す
- ⑪はがき・手紙・メールなど、文章コミュニケーションのある環境を維持する
- ⑫自分のライフスタイル（生き方）について理解を示してくれる人をつくる
- ⑬公私にわたって相談に乗ってくれる人をつくる
- ⑭人生にビジョンがある

皆様は該当する項目はいくつありましたか？

（大内すこやか保育園 矢野 裕美 記）

## 「出光興産に於ける健康管理事業の展開」



出光興産徳山製油所 人事課  
管理栄養士 角谷 香

～はじめに～

出光興産株式会社は、1911年6月に創業し、本年度が創業100周年にあたります。徳山製油所は、1957年に操業を開始し、その後、1964年に石油化学工場が操業を開始しました。そのことにより、原油から各種の石油製品および石油化学製品を製造できる事業所となり、日頃から、お客様に満足していただけるよう安定・安全操業を行い、地域と共に愛され、発展できるよう努めています。事業所の敷地面積は、約33万坪で更に大浦地区に32万坪の油槽所を備えており、従業員数約600名を有する周南地区の中核を成す企業として知られております。

私は、この出光徳山製油所・工場の人事課に所属し、従業員の皆さんの健康管理業務を担当しています。

私が新人の病院栄養士として働いていた頃、苦しんでいる多くの患者さんと接する中、何時かは「疾病の治療としての栄養指導」ではなく、「疾病にならない為の健康支援」がしたい・・・と、強く心に思っていました。

今、念願の夢が叶い、「疾病予防のための健康管理業務」を担当することができて、本当に幸せに思っております。また、子育て期間は地域活動栄養士として、あらゆる世代に食育教室などを行ってきましたが、会社でいろいろな世代と係わる上で大変良い経験となりました。

現在、出光興産株式会社徳山製油所・工場では、厚生労働省のメタボリックシンドローム解消のための指針をベースに様々な取り組みを展開しています。その一例ですが、社内全体の健康意識の向

上を図るための、健康通信やポスター掲示、定期的な体組成測定、社員健康講座や家族を対象とした健康教室などを行っています。2007年度より山口県健康づくりセンターと山口県周南健康福祉センターからご指導頂き、生活習慣病の予防と改善を目的とした集団健康教室「健康づくりセミナー」を7期開催致しました。さらに、2009年度から健康診断結果の判定により、生活習慣改善に向けた行動変容、及び定着を図ることを目的とした個別支援「健康応援プログラム」を行ったことで、終了後には各参加者の80%以上に血液・体力・意識面で大きな改善効果が得られました。このような長年の取り組みにより、40歳以上の社員に対しては、全体的に健康意識が高まりました。しかし、一方で、最近入社した若年期世代において、朝食欠食・運動不足・生活リズムの乱れが目立つようになりました。

そこで、2011年度からは、健康に対する意識の低い40歳未満の社員の生活習慣のサポートを強化するため、「若年期健康応援プログラム」を開始したところでした。生活習慣調査結果と健診結果に基づき、メール支援や各課を訪問して若手社員と面談しながら、各個人が自らの問題点に気づき、生活改善できるように支援するプログラムですが、今後の各種調査データにて行動変容の変化を確認しながら、本プログラムを確立していきたいと思っております。

これからも、従業員1人1人の「元気」が引き出せるように、情熱を持って全力でこの仕事にあたり、会社全体の健康に対する意識レベル向上と健康人口の増加を目標に邁進していきたいです。

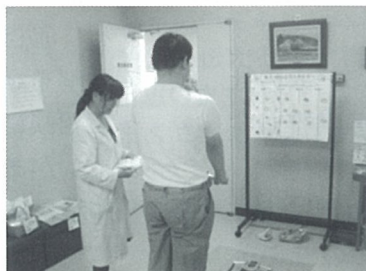
若年期健康講座風景

95名参加



体組成測定

(H23・4月測定327名参加)



手作りポスター

(K課長の生活スタイル)



## 実践報告

# 強化指定校への スポーツ栄養サポートの取り組み

スポーツ栄養専門委員会 中村 由佳里

(財)山口県体育協会では、山口国体に向けてスポーツ医・科学サポート事業が取り組まれている。その一環として今年の2月より、少年強化選手(強化指定校)7競技延べ12校を対象に栄養サポートを実施することになり、体協認定スポーツ栄養士が出向くこととなった。現在、西京高校陸上部短距離ブロック部員29名に対し栄養サポートを行っている。

指導者へのヒアリングや選手への個別面接の結果から、「コンディション維持のため、食生活の自己管理能力と実践力を身につける」ことを栄養サポートの目的とした。さらに、アセスメントとして身体計測、食物摂取頻度調査や健康感・食習慣・食意識などを問うアンケート調査を実施し、選手個々の課題や改善点の把握に努めた。アンケートの結果では約8割の選手が自分の食事は問題がないと認識していたが、食事調査の結果、約9割がアスリートの食事の基本形となる、主食・主菜・副菜・果物・乳製品の5つのお皿がそろわない食べ方をしていた。さらに、全体的に野菜類、芋類、豆類、果物類の摂取が少なく、肉類、菓子類の摂取は多い傾向にあった。選手のほとんどに正しい知識がなく、自分の食事に対して問題意識を持っていないことが明らかとなった。そこで、「栄養素の役割を理解しバランスよくとる食べ方ができるようになる」ことを栄養サポートの目標とし、食事や水分補給方法の栄養教育を行うと同時に、自己管理能力を促す一手段として食事自己点検表の記入を試みた。また、練習を見学し選手のコンディションを確認したり、試合時には試合会場に出向き、アップや召集時間、競技開始時間に合わせた栄養補給についてアドバイスを行った。

栄養の知識はについても継続的に食事バランスを整えて食べることはなかなか難しいようであるが、1週間単位ではお皿がそろえられるようになった。また、選手から食事や試合時の栄養補給について積極的に質問が出るようになり、食事に関する会



第62回 山口県高校総体  
(平成23年5月28~30日)  
男女共総合優勝

話も増え、食事に対する意識が変化し自分の食べる物に興味を持てるようになってきた。「体が軽い、バテない、なんとなく調子がいい」と選手自身が感じる感覚が行動変容へとつながったと思う。指導者からは、体調不良や故障が減りスピード力やスタミナもつき競技力がアップしたとの評価を得た。選手には、「毎日の食事は勝てる体をつくるトレーニングのひとつであり、試合にもベストな状態で臨むことができる」という日々の積み重ねの大切さを繰り返し伝えている。小・中・高における食育が望ましい食習慣の形成のためにも必要であることを実感した。

スポーツ栄養士の活動は、目標に向かって頑張る選手を支える大きな力となる。選手からたくさんのパワーをもらえること、一緒に戦って喜びを分かち合えるという充実感がある。栄養サポートの継続には、指導者との連絡を密にし指導者や選手、保護者と信頼関係を築くことである。「いてくれて心強い」「この人に頼んだら良い結果が出せるかもしれない」と思ってもらえるような仕事を積み重ねていくことが必要であろう。

山口国体を契機に、選手にとってスポーツ栄養士は必要な存在であることを印象づけ、競技団体や強化指定校に管理栄養士・栄養士による栄養サポートが定着するよう、今後も継続的にサポートをして行きたい。



練習後のグループ指導



選手、指導者を対象とした栄養セミナー

## 献血時での栄養相談について

柳井支部 中村 作

柳井支部では、平成22年7月と平成23年2月の2回、ゆめタウン柳井において、献血イベント時に血色素量不足者等に対する栄養指導等の啓発事業を実施しました。

献血に来られた260名の内、指導を受けた方は20名（下表参考）でした。指導を受けた方の多くは血色素量不足に関する指導でしたが、他にも血圧についての指導や、今まで健診を受けたことがないと話された方へ健診を受けるよう進める等の指導も実施しました。

	献血受付者数	献血実施者数	献血不適者	内栄養指導実施者
7/19	163	111	52	11
2/20	97	69	28	9

血色素量不足者には血色素の役割、血色素不足の要因、血色素を増やすコツを中心に指導しました。話を聞いてみると、食品の好き嫌が多い（男女）、中強度の運動を行っている（女性）、コーヒーを1日に約10杯程度飲む（女性）等の発言があり、これらが血色素不足の要因になっていると感じました。そして血色素を増やすコツを指導すると、小松菜・納豆・枝豆が鉄分を多く含む食品とは知らなかった、日頃から食べている物に気をつけてみる、毎食後に緑茶やコーヒーなど鉄分の吸収を妨げるタンニンを含む食品をとっていたから、他の飲み物に変えてみる等の発言があり、意識の変化が見受けられました。

今回の栄養指導は、単に献血実施者を増やすだけでなく、県民が健やかによりよく生きることにつながるものであると再認識させられた事業となりました。今後も継続して実施したいと思いました。

山口支部 田島 典子

血液センターでの健康相談は、献血に来られた方が、ヘモグロビン、血液比重が採血基準を満たしておらず、献血できなかった方を中心に(全国の献血者全体の約1%)健康をサポートし今までより多くの方に献血に参加していただくことを目的とし、年に数回実施されています。

今年1月から2月に実施した結果、ヘモグロビン値低値(H.b12.5/dl以下)男性(60代)1名、女性(30代から50代)3名(そのうち、重度の貧血者H.b9.6/dl1名含む)でこのほとんどの方に偏食がみられ、肉、魚、大豆、野菜、果物、炭水化物のうち、肉、魚、野菜をほとんど食べなかったり、仕事の都合で昼食を欠食するなどがみられました。重度の貧血の方では、月経時に経血量が多く婦人科受診されてました。体調については、無症状や、疲れやすい、顔色が悪い、肌荒れなどです。

食事の改善点として、いずれも、野菜を1日350g摂取する工夫(みそ汁やスープに入れてかさを減らす)や肉、魚、大豆製品など鉄分の多い食品と野菜を組み合わせる献立や、V.Cの多い果物を摂取し効率よく吸収させること。欠食する方には出来るだけ3食摂取するのが望ましいが無理ならば朝食をバランスよくしっかり摂取し補っていただくことなどをあげました。

コレステロール値高値では砂糖の摂りすぎが考えられたので、摂りすぎた糖分は脂肪に変わることをあげ減らすよう促しました。

その他、減塩食、胃の膨満感、便秘、肥満、などの相談がありました。

上記の方々も、自身の健康に興味があり、採血数値を前回の値と比較し、食事や運動をどのように改善すれば良いか。と見直すきっかけに相談に来られる方もたくさんおられ、健康意識の高い方が多いと感じました。

せっかく、健康に対して意識の高い方々ですが、食事や運動、喫煙、飲酒習慣のどれかに、無関心で興味のない部分や、わかっているも自身の気持ちだけでは甘くなり改善出来なかったりする部分があれば、こちらが改善点を伝えることで意識も変わりやすく、より健康的な生活を送っていただけるのではないかなと思います。

指導や相談業務は難しいこともたくさんありますが相談者の心が動いてくれた！と感じるときにはやりがいを感じます。

食事(食べること)はやがて命につながる。ということを大切に、これからも伝えていきたいと思えます。

## 宇部支部 池田加代子

平成22年度「愛の血液助け合い運動」強調月間《街頭献血イベント》山口県献血推進計画の一環として健康相談の依頼を受けました。

8月の日曜日、宇部支部の2会場で、市職員・高校生・食推さん達もイベントPRの応援をされていました。

相談は検査で献血できなかった方々への栄養指導（相談）です。偏食や食物アレルギーがあったり、血管が細く採血できない、Hbが10以下の方もいらっしゃいましたが、多くはHb量が少し不足で、体調をよくしたり、日頃の食生活を見直せば、献血が可能な状態になるケースが多いと感じました。非常に短い時間内に、パンフレットを活用しながら、①三食きちんとよく噛んで食べ、②無理なダイエット、偏食をせず適切な量を、③栄養バランスのとれた食事をしましょうと食生活の基本、更にHbを増やす為、①鉄分、②良質なたんぱく質、③V.C.V.B郡の多く含まれた食品を摂取すること、また、タンニンや女性で特に気をつけなくてはならない点など、質問に答えたり、指導をしました。

自主的に献血目的で来場されたり、会場での呼びかけに応じて下さった方々ですし、相談時には「次回は絶対に採血してもらえたい状態になりたい」と話される程です。日々の食生活の改善を心がけて下さると感じました。

地域活動の一つになると思います。

## 防府支部 田中 芳枝

平成23年2月11日（金）、防府イオンにおきまして「はたちの献血キャンペーン」が開催されました。この日は、雪混じりの雨が降り、とても寒い一日でした。献血協力者の目標は100名でしたが、午前中は協力して下さる方が少なく目標に届くか心配していましたが、終えてみると80名余りの方々に協力して頂くことが出来ました。受付人数は110名を超えていたと思います。相談対象者は献血が出来なかった方で、ヘモグロビン量の少ない方が殆どでした。みなさん休日の買い物の合間に献血にご協力下さっていたので急いでいらしたせいか、対象者からの相談はありませんでした。そんな中、お声かけをしますと、ご立腹される方も居られ戸惑いもありました。年齢層も様々なので、アドバイスに使用するパンフレットには沢山の内容が記載してあるので、お伝えする内容を①肉や魚の赤身の鉄は吸収率が高い②食物性の鉄分は果物や生野菜と摂取すると吸収しやすくなる、この2点に絞り簡潔にアドバイスを終えることにし、急いで居られる方にはパンフレットを渡しました。特に②のアドバイスには興味を持たれる方が何人かあり、十分にお話しできる方もありました。この度初めて献血のお手伝いをさせて頂きました。お陰で献血の事を詳しく知ることが出来、それ以来私も月に1度は献血をしています。

血液又血液成分の保存期間は短い為、継続的な献血が必要とされている様です。皆さんも献血にご協力されてみてはいかがでしょうか。

## ワンポイント アドバイス

## カルテからSOAPを読み取る

今回は、SOAPを活用した記録の例をご紹介します。  
栄養指導後の報告書は詳細に記載しても、受け取る側はじっくり見ているでしょうか？

多忙な日常業務の中ではSOAP形式で記載すると報告書を受け取る側も、記載する側もお互いに要点のみの記載なので助かります。

第22回管理栄養士国家試験（2008年実施）にもSOAPに関する問題が出題されていました。会員の中には実際にこの回の試験を受験された方もいらっしゃいますが、大部分の会員はご存じないのではないかと思います。今回は、この出題された問題をご紹介します。

問130 2型糖尿病と診断された52歳の事務職の男性に栄養指導を行った。

「糖尿病といわれてびっくりしています。食事についてきちんと勉強したい。」とのことであった。HbA1c：7.0%、身長：170cm、体重：70kg

POS（Problem Oriented System）によりSOAPに分けて記載した。

正しいのはどれか。

- (1) S-2型糖尿病の事務職男性。
- (2) O-糖尿病と言われてびっくりしています。
- (3) A-食事についてきちんと勉強したい。
- (4) A-HbA1c：7.0%、身長170cm、体重：70kg
- (5) P-体重のモニタリング

ここで、SOAPの意味を再度思い出してみましょう。

S：主観的なもの。本人がしゃべった言葉など。

O：客観的なもの。診察所見や検査データなど。

A：アセスメント。SとOを参考に記載者が考えたこと。

P：計画。SOAをもとに立てた今後の計画。

この問130は、2型糖尿病と診断された52歳の事務職の男性(O)に栄養指導を行った。

「糖尿病といわれてびっくりしています(S)。食事についてきちんと勉強したい(S)」とのことであった。HbA1c：7.0%、身長：170cm、体重：70kg(O)と分けられます。

したがって、この問130の答えは、(5)P-体重のモニタリングとなります。

この場合にはA（アセスメント）に分けられるものはありませんが、実際のカルテもこのようにSOAPに分けて考えるとプランが立てやすくなります。

また、聞き取りだけの場合においてもSOAPに分けて考える習慣を身につけると無駄な時間を費やすことなく、的確に栄養指導を実施し、報告書を記載することができます。

会員の皆さん、これから報告書を記載する時には是非SOAPを活用してみましょう！！

(田坂 克子 記)





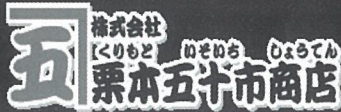
# いきいき家族

たんぱく調整食品・カロリー調整食品 介護食・減塩食 等  
さまざまな食品を取り扱っています。  
病院・施設等で使用されている食品をご家庭でお使いいただけるよう  
通信販売もしているため、栄養指導等でもお使い頂けます。



厚生労働省・農林水産省認可

全国病院用食材卸売業協同組合員



本社: 739-0622 広島県大竹市晴海2丁目10-45 ☎0827-57-7233  
山口営業所: 754-0894 山口県山口市佐山747-12 ☎083-988-2680  
ホームページ <http://www.ishizue.com/kurimoto/>



お宅に埋もれている  
原稿はございませんか?  
チラシ・パンフレット等お気軽に  
ご相談下さい。



様々な印刷物作成の  
お手伝いを致します。



名刺・伝票・ハガキ・封筒から要覧・パンフ・雑誌また論文・教科書テキスト・報告書・研究室誌・  
写真集・自分史にいたるまで、インクジェットプリント・グラウンド印刷・データ入力(EXCEL・WORD)他。  
あなたのご要望に合わせて考えて参ります。お気軽にご相談下さい。



社会福祉法人 山口県コロニー協会経営

## コロニー印刷

本部・工場 防府市大字台道長沢522  
TEL(0835)33-0100 FAX(0835)32-2514  
県庁連絡室 山口県庁障害者支援課内 TEL(083)924-8986  
秋芳連絡所 山口県美祢市秋芳町嘉万 TEL(0837)64-0966